

創立50周年で三鷹に新キャンパス 2016年、八王子の3学部を移転

杏林大学学長 跡見 裕氏

本誌 杏林大学は二〇一六年に創立五〇周年を迎えますね。

跡見 本学の歴史は、初代理事長である松田進勇先生により、一九六六年に現在の三鷹キャンパスに衛生検査技師を養成する杏林学園短期大学が設立されたことに始まります。

そして、一九七〇年に杏林大学医学部が創設され、その後、一九七九年に保健学部、一九八四年に社会科学部（現在の総合政策学部）、一九八八年に外国語学部を相次いで開設し、現在では人文・社会科学系、医学・保健医療系の四学部に医学部付属病院を合わせ持つ総合大学として約四五〇〇名の学生が学んでいます。また、この間に医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科の大学院三研究科、医学部付属看護専門学校が設置され、これまでに三万人以上が卒業し、医療関連だけでなくさまざまな分野で活躍しています。

本学は三鷹と八王子にキャンパスが分かれており、三鷹キャンパスに医学部、保健学部の看護学科看護学専攻、看護専門学校、八王子キャンパスに保健学部、総合政策学部、外国語学部を設置していますが、今後三鷹キャンパスの北側七〇〇メートル

ルの約三万五〇〇〇㎡の敷地に新校舎を建設し、創立五〇周年の二〇一六年度には八王子キャンパスの三学部・二研究科を移転させる予定です。

本誌 建学の精神は「真・善・美の探究」ですね。

跡見 「真」は真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味します。

「善」は倫理観を持ったよき人間性・人格を形成すること、他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことです。「美」は真理に対し謙虚に学ぶ姿勢を持ち、他人を尊重し、自らの身を持つのに厳しく、美しいものを美しいと感じる感性を磨くよう努めれば、自然に美しい立派な風格のある人間に成長していくことを意味しています。

本学では、この建学の精神に沿って、ヒューマニティに溢れ、人の心を理解し、人のために尽くすことの出来る国際的な人材の養成を目指しています。



2016年4月完成予定の三鷹新キャンパス

また、杏林大学の名は中国に伝わる故事に由来しています。かつて中国の廬山に董奉という医師がいましたが、彼は治療費の代わりに患者さんに杏の木を植えてもらったので、いつしか見事な杏の林ができたのです。この故事から後世、良医のことを杏林と呼ぶようになりました。この故事に因んで名付けられた本学は、専門的知識や技術に優れているだけでなく、立派な人格を持ち、人の痛みがわかる医師など社会に貢献できる職業人の育成を図っています。

スマートでタフな日中英 ライリンガル人材を育成

本誌 文部科学省の平成二四年度グローバル人材育成推進事業に外国語学部を中心とした「中国語圏で活躍するスマートでタフな日中英トライリンガル人材の育成」が採択されました。

跡見 本学は日本語、英語、中国語の三カ国語を重視した教育を行っており、同事業では中国語圏で活躍できる卓抜した語学力とスマートでタフな交渉能力を兼ね備えたグローバル人材を養成することを目指して



跡見裕（あとみ・ゆたか）氏

1944年12月、愛知県一宮市生まれ。1970年・東京大学医学部卒業、第一外科医員。1982年・東京大学医学部第一外科医局長。1988年・カリフォルニア大学サンフランシスコ校外科客員研究員。1992年・東京大学医学部講師。同年・杏林大学医学部第一外科教授。1998年・杏林大学病院副院長。2004年・杏林大学医学部長。2010年4月・杏林大学学長。

日本消化器病学会、日本消化器関連学会機構等理事長、日本成人病（生活習慣病）学会会長等歴任。

います。この事業の一環として、独自に開発した実践的語学教育プログラムを少人数クラスで実施すること

に加え、ネイティブスピーカーと目標言語のみでコミュニケーションする中国語サロンと英語サロンを設置しました。また、本学では毎年一〇〇人前後の学生が語学研修、派遣留学、交換留学などに参加する一方、全学台わせて約一五〇人の外国人留学生が学んでいます。さらに海外留学や研修を推進するため、独自の奨学金制度や授業料等減免制度による支援などを行っています。

本誌 学部間連携の授業を推進し

ていますね。

跡見 本学では医学・保健医療系人文・社会科学系の学部を有していることの利点を活かし、一つの学部にとどまらず、他学部の授業を受けたり、他学部教員の講義を聴くことのできる学部間連携科目を導入しています。医学部での「医療科学」では人間性、倫理性、哲理性を含む幅広い情操面の豊かさを培うための講義を行っています。これに文系の先生が積極的に参加しており、学生に好評です。また、文系の学部では医学部や保健学部の教員が授業を行っており、例えば、観光交流文化

学科（外国語学部）の学生が「観光保健論」で感染症の話を直接医学部の教員から学ぶことができます。こうした授業により、学生は自分たちの学部にはない講義を受け、幅広い知識を修得することが可能になります。八王子キャンパスの移転により二つのキャンパスがぐっと近くなりますので、こうした学部間連携の授業をさらに充実させていきます。

本誌 基礎 教養教育の充実も図っていますね。

跡見 総合政策学部のプレゼミナールや外国語学部の基礎演習などでは、入学時に少人数のクラスで正しい日本語の使い方など社会人としての基礎から大学での教育を受けるに必要な教養までを時間をかけて学んでいます。

私は、教養があるというのは「他人の考えが正しく理解でき、自分の考えを正しく伝えられる能力があること」が基本だと考えており、どのようなことにも基礎が大事です。本学の四学部はそれぞれ異なる専門分野を目指すものですが、その根底にあるものは共通であり、四学部各学部間で相互に高め合う教育をさらに進めていきたいと思っています。